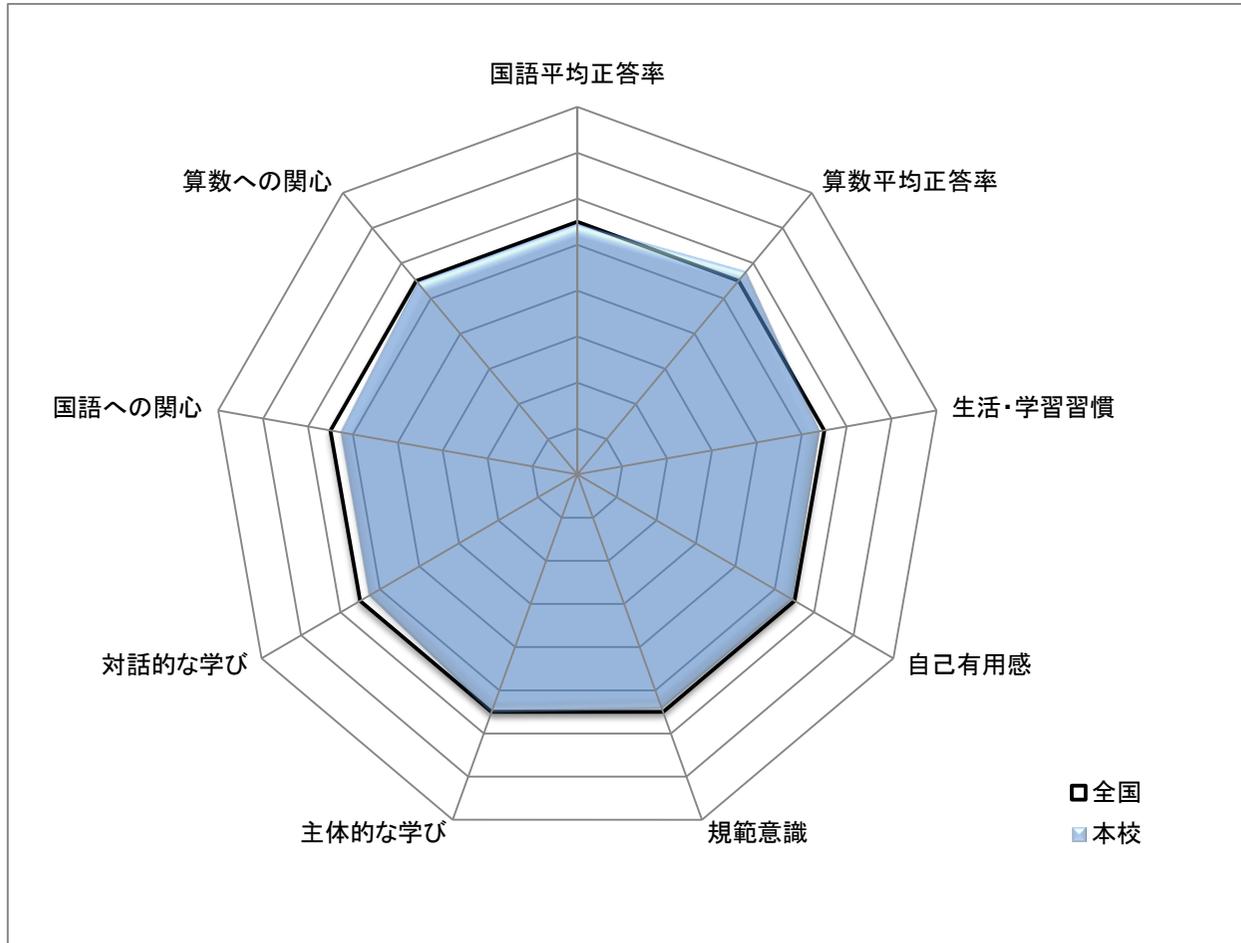


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・文章を細部まで読み取ったり、文章で表現したりする力が不足している。
- ・漢字の書き取りは、全国平均を超えているが、普段の学習では、苦手になっている児童が比較的多い。
- ・算数では、得意な分野（図形やグラフ）と苦手な分野（約数や人口密度など）との差が大きい。
- ・自分の考えや気持ちを伝えることに苦手意識をもっている児童が見られる。

《授業改善のポイント》

- ・国語の授業においては、目的に応じて中心となる語や文を捉えて読んだり、目的や意図に応じて文章を書いたりする指導の充実を図る。
- ・漢字の学習では、部首や熟語とも関連させながら学習を進め、漢字への興味をより深めていく。また、朝のステップタイムを利用し、漢字の習熟を図る。
- ・算数の苦手な単元においては、単元計画を見直し、習熟の程度に応じた指導や学習形態を工夫しながら授業を進める。
- ・授業において、ペア学習・グループ学習の形態を計画的に取り入れ、対話的活動の充実を図る。

《チャートの特徴》

国語の正答率は全校平均と比較して0.8%低かった。**国語への関心**もやや低く、特に授業の中で、「話や文章の組み立てを工夫しながら自分の考えを発表すること」に苦手意識をもつ児童が多かった。その意識は、**対話的な学び**とも関係しており、対話を通して「自分の考えが伝わっている」、「話し合いが深まっている」と実感できていない児童がいることがわかった。
主体的な学びにおいて肯定的な回答が多く、「課題を立てて学習活動に取り組むこと」が好きな児童が多かった。特に、「勉強が好き」と答えた児童の多い算数においては、**算数の正答率**も高かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・睡眠や食事などの生活リズムを整えて、家庭学習の習慣や正しい生活習慣を定着させていくことの大切さを伝える。
- ・学校であったことや頑張ったことなどを家庭で話し合い、コミュニケーションをしっかりと取っていくことを伝える。